

令和4年度 授業改善推進プラン 英語科 (大森第三中学校)

昨年度の授業改善推進プランの検証

★取り組みにおける成果と課題
・外国人講師との授業で、英語に対する意欲やコミュニケーション能力の伸長につながった。 ・単語テストや定期考査の振り返りを行い、基礎的な力を定着させるための工夫ができた。 ・毎日の宿題や予習における家庭学習の習慣化を意識させる工夫が必要である。 ・基礎学力の低い生徒への個別指導が課題である。

英語の内容別結果の分析 (区・学習効果測定)

内容	1年生	2年生	3年生
聞くこと	○校内平均正答率は、目標値を8.8P(ポイント)上回っている。ただ、区の平均値は0.3P下回っている。 ○リスニング力は良好である。	○校内平均正答率は、目標値を7.9P(ポイント)上回っている。区の平均値は0.7P下回っている。 ○リスニング力は良好である。	○校内平均正答率は目標値を5P(ポイント)上回っている。ただ、区の平均値は0.2P下回っている。 ○リスニング力は良好であるが、絵や図を読み取り、聞き取った英文を結び付ける力をさらに定着する必要がある。
読むこと	○校内平均正答率は、目標値を6.4P上回っているが、区の平均値は0.8P下回っている。 ○簡単に短い文章を理解するため、授業や家庭学習で定着を図る必要がある。 ○音読に対して抵抗感を示す生徒はあまりいない。大半の生徒が音読に意欲的に取り組んでいる。	○校内平均正答率は、目標値を6.3P上回っている。区の平均値は0.5P下回っている。 ○長文や対話文などの読み取りはよくできているが、語彙力をつけたり、内容や要点の把握、質問に英語で答えるなど定期的な練習が必要である。	○校内平均正答率は、目標値を5.6P上回っている。区の平均値においても、0.8P上回っている。 ○長文や対話文などの読み取りはよくできていたが、さらに読解力を向上させるために、動名詞や過去進行形などの基本的な語形・語法を授業や家庭学習で定期的に練習する機会を作っていく必要がある。
書くこと	○校内平均正答率は、目標値を6.5P上回っている。区の平均値においては0.6P下回っている。 ○一部の生徒は他の技能に比べ書くことに苦手意識をもっているため、今後の基礎練習の積み重ねが必要である。	○校内平均正答率は、目標値を7.1P上回っている。区の平均値は0.6P下回っている。 ○特に単語の並べかえによる英作文を正しく書いたり、自分の意見を述べる3文以上の英作文を書くことがよくできていた。 しかし、対話の流れに合った英文を正確に書く(場所をたずねるなど)ことが今後の課題である。	○校内平均正答率は、目標値を11.6P上回っている。区の平均値においても、4.1P上回っている。 ○英文を正しい語順に並べかえて書くことや、自分のしたいことについて、具体的な説明や理由を付けて、書くことがよくできていた。しかし、対話の流れに合った英文を正確に書く(許可を求めるなど)ことが今年度の課題である。

英語の観点別結果の分析 (区・学習効果測定)

観点	1年生	2年生	3年生
知識・技能	○校内平均正答率は目標値を10.1P上回っているが、区の平均値よりも0.1P下回っている。 ○基本的な語彙や文法を復習する必要がある。 ○徐々に異文化理解の機会を増やす。 ○日常会話や対話文に慣れ、何が問われているのか読み解く力をつけることが課題である。	○校内平均正答率は、目標値を7.8P上回っている。また、区の平均値を、0.2P下回っているが、全国平均値を3P上回っている。 ○対話文を読み、単語を正しく書いたり、所有代名詞の形や一般動詞の過去の疑問文に関する語形・語法をよく理解していた。しかし、命令文の動詞の形や現在進行形を含む分を復習し、定着を図る必要がある。	○校内平均正答率は、目標値を5P上回っている。区の平均値においても0.5P上回っている。 ○単語を正しく書いたり、助動詞や接続詞に関する語形・語法をよく理解していた。しかし、不定詞(形容詞的用法)や比較表現を中心に、基本的な語彙・文法を復習し、さらなる語形・語法の定着を図る必要がある。
思考・判断・表現	○校内平均正答率は、目標値を2.5P上回っているが、区の平均値よりも1.3P下回っている。 ○今後外国人講師と連携し、自ら進んで会話ができるように、実践的な表現活動の場面を設定していく必要がある。	○校内平均正答率は、目標値を5.3P上回っている。また、区の平均値を、1.4P下回っているが、全国平均値を1.8P上回っている。 ○自分の得意なことについて、まとまった内容で説明する文を書き表すことがよくできていた。しかし、対話の内容を聞き、資料をもとに英語で答えることが課題である。	○校内平均正答率は、目標値を11.2P上回っている。区の平均値においても、3.4P上回っている。 ○自分のしたいことについて、まとまった内容で説明する文を書くことがよくできていた。しかし、英文を読み、要点を理解して相手の意向に適切に応じることに課題がある。授業内で継続的に、ペア活動などの言語活動を取り入れ、定着を図る必要がある。
主体的に学習に取り組む態度	○校内平均正答率は、目標値を0.9P下回っており、区の平均値よりも0.8P下回っている。 ○英語に対する関心は高く、コミュニケーションへの関心は良好である。	○校内平均正答率は、目標値を7.2P上回っている。また、区の平均値を、0.9P下回っているが、全国平均値を2.8P上回っている。 ○英語を意欲的に聞いたり、書こうとしており、コミュニケーションへの関心は良好である。	○校内平均正答率は、目標値を9P上回っている。区の平均値においても、2.6P上回っている。 ○英語を意欲的に聞いたり、書こうとしたり、コミュニケーションへの関心は良好である。

英語の課題と具体的な授業の改善策

学年	課 題	具体的な授業改善策
1年	○コミュニケーションへの意欲、関心を持続させながら、基礎基本の定着を図る工夫をする。 ○難易度が増していく語彙や文法項目を、スムーズに定着させていけるよう確認テストなどの必要がある。 ○基礎学力が定着するように、授業で繰り返し既習事項を復習しながら進める。	○コミュニケーションへの意欲、関心を持続させるため、ペアワークやグループワークを行い、学んだ語法を使う活動を取り入れる。 ○学習した新出単語や文法事項を繰り返し学習するよう、小テスト等を行い家庭学習の習慣を図る。 ○外国人講師を効果的に活用し、実際に会話する場面を多く設定する。それによりやる気の向上を図り、学習項目の定着につなげていく。
2年	○コミュニケーションへの意欲、関心を持続させながら、基礎基本の定着を図る工夫をする。 ○単語など基礎基本の定着を継続させながら、発展的な内容に取り組めるよう、授業の工夫をする。また、生徒一人一人に目標を持たせ、達成できたかを振り返りをさせていきたい。 ○内容別、観点別結果の分析から、対話の流れに合った英文を書くことと英文を読み、要点を理解して相手の意図に適切に応じる力を身につけていく必要がある。	○コミュニケーションへの意欲、関心を持続させるため、ペアワークやグループワークを行い、学んだ語法を使う活動を取り入れる。 ○学習した新出単語や文法事項を使って、自ら英語を話したり、英文が書けるよう、QAを取り入れ、スピーキングやライティングの力を養う。 ○定期的にまとまった文を読み、それについて英語で自らの意見を言ったり、書いたりする活動を取り入れ、英語を使うという習慣を育てるよう、授業を進めていく。
3年	○既習の基本的な語形・語法の定着を継続させながら、自分の考えを効果的に伝える発展的な活動に繋げていく必要がある。 そのために、授業内でペア活動などの言語活動を定期的に取り入れ、主体的な態度を育成する工夫が求められる。 ○内容別、観点別結果の分析から、書くこと(場面に応じて書く英作文)、読むこと(語形・語法の知識・理解)の力の定着を図る必要がある。	○単元テストや定期考査などで、既習内容を含んだ問題を出題し、継続的に振り返る機会を設定する。 ○帯活動として、ペアでQA活動を行い、スピーキング能力の向上を図る。即興で相手の意図を読み取り、適切な対応をする活動を取り入れていく。 ○設定に沿って、自分の考えをまとめた英文で書く問題を定期考査などに取り入れていく。また、それに向けて、語形・語法に関する基礎基本の徹底も図っていく。主体的な態度を育成するために、できることから伸ばしていく。